

# 教育ボランティアニュースレター

第26号  
発行月 2021年2月

## 今年度の「教育ボランティア交流会」の中止のお知らせ

新型コロナウイルス感染症の再拡大に伴う2度目の緊急事態宣言を受けて、毎年行っておりました教育ボランティア交流会は、昨年度に引き続き、今年度も「中止」とさせていただきます。また皆様とお会いできることを楽しみにしております。どうぞご自愛いただきますようお願い申し上げます。

## ～ 今年度卒業をする学生からのメッセージ ～

教育ボランティアの皆様には大学1、2、3年生でお世話になりました。私たちは、普段の学内での授業では、学生同士か、自分よりも看護の知識のある教員と話しあうばかりでした。そのため、誤った知識をもとに話をしても、訂正してもらえ環境にいたといえます。しかし、初めて教育ボランティアさんとお話しさせていただいた際に、ある学生が間違った情報を教育ボランティアさんに伝え、不安にさせてしまったという経験をしました。その話を聞き、自分たちは資格を持っておらず、看護師ではないといえども、看護学生として、専門職の一員となる責任を持ち、正しい情報を正確に伝えることが必要なのだと知ることができました。実習の際に落ち着いて患者さんと向き合い、正しい知識を責任持って伝える意識を持てたのは教育ボランティアの皆様のおかげだと考えております。本当にありがとうございました。

/4年 垣東 真衣

私たちは普段、違う世代の方々とお話する機会がありません。そのため、はじめ教育ボランティアさんに関わる際には、どのようなお話をすればよいのかわからずにいました。その時には皆さんから話を振ってもらったり、ケアをさせていただく際にも率直な意見をいただくなど、不慣れな自身を客観視する機会を多くいただきました。病院実習では自分が普段お会いしない世代の方と出会い、その方々の生活について考えていくこととなります。その時、教育ボランティアの方々からいただいた患者視点の意見が、ケアを受ける相手に自分の行為がどのような影響を与えているのかということを理解するのにとても役立ちました。患者さんはケアを受ける側だから、と自分の思いを遠慮してしまうこともあります。しかし、その中でも様々な思いを抱えながら看護を受けているということを常に忘れずにいられるのは、一番最初に教育ボランティアの方々関わったからではないかと思えます。とても貴重な学びの機会をいただき、本当にありがとうございました。

/4年 稲吉 未希子

## 今年度の教育ボランティア導入授業のご報告（2020年9月/12月実施）

今年度は10科目で教育ボランティア導入授業を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を受け中止を余儀なくされました。その中で感染状況が落ち着いた頃に2科目を実施することができました。

9月に神戸学院大学と合同で実施した「多職種連携Ⅰ」演習では、6名の教育ボランティアの方に生活や療養・介護体験を聞かせていただきました。経験談を通して、他学部の学生と病気をもちながら生活することはどういうことか、専門職ができることはなにかを話し合うことができました。



12月の「老年健康生活支援論」では、多くの資料を提示しながら、これまでの生活史や現在の生活状況を語っていただきました。学生には想像もつかない様々な体験をされてきたことや新型コロナウイルス感染症による現在の生活への影響を知り、お一人お一人の生きてこられた人生や生活を理解して看護することの大切さを考えることができました。

